



p4cみやぎ6月研修会報告

2022年度スタート!

p4c みやぎ研修会 (オンライン)

例年のない猛暑続きの中、6月29日(水)に本年度第1回目となるp4cみやぎ研修会がオンラインで実施されました。

32名の参加者をお迎えして、研修Ⅰでは、宮城教育大学 上廣倫理教育アカデミー 小関俊昭教育支援コーディネーターから、『教育施策における「探究の対話(p4c)」の活用について」というテーマで宮城県白石市の実践事例についてご紹介いただきました。研修Ⅱは、参加者全員でp4cの体験を行いました。

本年度もp4cの実践者、または興味・関心のある皆様と有意義な学びの機会を共有したいと考えております。これからも5回の研修会が予定されていますので、多数の皆様のご参加をお待ちしております。

【研修Ⅰ】

話題提供:『教育施策における「探究の対話(p4c)」の活用について』

講師:宮城教育大学 上廣倫理教育アカデミー 小関俊昭教育支援コーディネーター

・「探究の対話(p4c)」導入

平成26年度に白石第二小学校で、学校課題の打開策を模索している中、このp4cに出会った。特にp4cのセーフティの概念が、課題解決に有効ではないかということで、仙台市の先進校視察や実践授業、研修会などを行い、白石第二小学校にp4cを取り入れていった。

・「探究の対話(p4c)」の広がり

平成27年ハワイから先生方を招いて、p4c研修会を実施したり、白石の教員2名がハワイで実際に研修を行ったりすることで、p4cがより認知されるとともに、白石二小の実践が日本教育新聞に取り上げられるなどして、白石市内の他校へもp4cの活動が広がっていった。

・「探究の対話(p4c)」を盛り込んだ教育施策

平成28年度に、白石市の教育施策にp4cが導入される。白石市教育振興基本計画には、
◇探究の対話(p4c)を生かした教育課程の編成に努める。

◇探究の対話(p4c)の理念を取り入れた授業に

より、安心をベースとした対話ができるようにする。

などの文言が入っている。それに伴い、各学校に探究の対話(p4c)担当教員を配置することが教育委員会で定められた。校長会にも探究の対話(p4c)担当校長が置かれ、対面での研修会実施のお世話をしている。(本年度も実施)

教育施策に探究の対話(p4c)が盛り込まれたことで、授業公開を含むフォーラム、国際交流セミナー、花山キャンプなどp4cに関わる活動が活発に展開されるようになってきた。

・「探究の対話(p4c)」可能性や留意点

p4cは、幼稚園やPTAなどにも広がっており、朝の活動として教育活動に位置付けて実施している学校もある。白石市も広報面を含めて積極的にバックアップしており、助かっている。しかし、p4cは、あくまでも学校ごとに、自分たちの課題を見据えて、その目的に沿って取り入れていくことが大切である。

【研修Ⅱ】 参加者によるp4c体験

本日の問い:「p4cのデメリットはどんなところ?」

※参加者から事前に寄せられた問いの中から、対話をする問いを選びました。この問いを出された先生は、「生徒を対象に余暇活動の一つとしてp4cを行っているが、継続して参加する生徒が少ない」という悩みをお持ちでした。p4cの良さはわかるが、デメリットは何かを今回皆さんと話してみたいということで対話がスタートしました。

- ボールが回ってこなくて、話し足りないという子供の声があった。
- 長所、短所は表裏の関係。良さの反対にあるものを意識しながら、活動していくことは必要。
- セーフティな場であるp4cだが、その場の雰囲気はかなり踏み込んだことまで話している生徒がいた。p4cが終わった後が、気がかりだった。
- 言いたくないことは言わないでいいなど、4つのルールをしっかり確認することと、教師のアフターフォローが必要である。

HP <http://p4c-miyagi.com/>

Mail p4c@grp.miyakyo-u.ac.jp